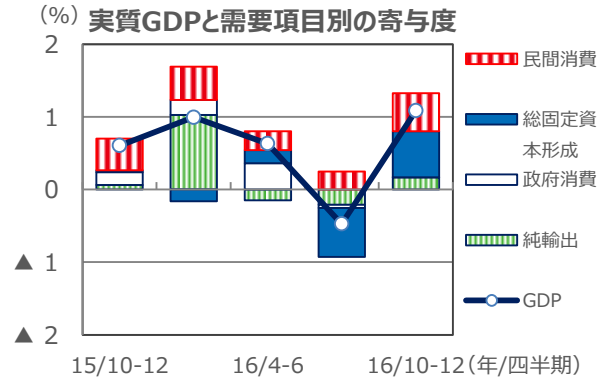


今日のトピック 豪州のGDP成長率（2016年10-12月期） 前期比プラス成長に戻る。豪ドルは底堅い展開へ

ポイント1 プラス成長に戻る 民間投資が回復

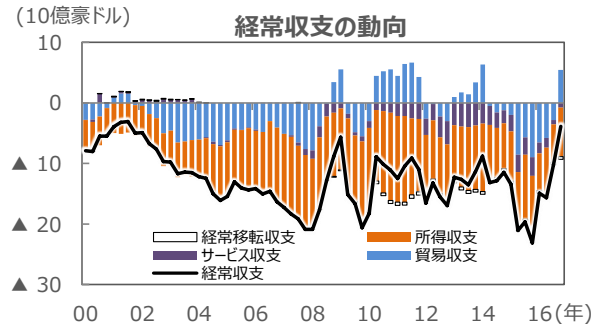
- 2016年10-12月期の豪州の実質GDP成長率は前期比 + 1.1%と市場予想（Bloomberg集計）の同+0.8%を上回り、プラス成長に戻りました。
- 前期に同 ▲ 1.3%に落ち込んだ住宅投資が同 + 1.2%に回復した上、設備投資が同 + 1.6%と資源価格の上昇から10四半期ぶりにプラスに転換するなど、民間投資に明るさが増しました。純輸出、政府支出も回復しました。



(注1) データ期間は2015年10-12月期～2016年10-12月期。
総固定資本形成 = 設備投資 + 住宅投資 + 在庫投資。
純輸出 = 輸出 - 輸入。
(注2) 実質GDPは前期比。需要項目はGDP成長率に対する寄与度。
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 経常収支も大幅に改善 資源価格の持ち直しが貢献

- 一方、2016年10-12月期の経常収支は▲39億豪ドルとなり、前期の▲102億豪ドルから大幅に改善しました。経常赤字は15年ぶりの規模まで縮小しました。背景には、2016年末にかけて鉄鉱石と石炭価格が上昇した結果、輸出金額が急拡大し貿易収支が黒字に転換したことがあげられます。

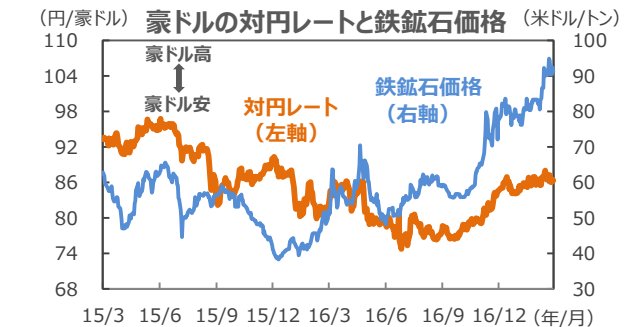


(注) データ期間は2000年1-3月期～2016年10-12月期。
(出所) ABS、Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 豪ドルは底堅い展開へ

- 豪州経済は堅調さを増すと予想されます。資源セクター(*)の成長率に対する寄与度は、前年比では依然マイナスですが、資源価格が堅調に推移していることから、今後はプラスに寄与する可能性があります。また、資源価格が現在の水準で推移すれば経常収支が黒字に転換する可能性が高まりそうです。豪州経済の堅調さに加え、経常収支の大幅な改善は、豪ドルを下支えすると期待されます。

(*)資源セクター = 鉱業投資 + 財純輸出



(注) データ期間は2015年3月2日～2017年2月28日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2017年 2月24日 資源価格の動向 堅調に推移する資源価格
2017年 2月21日 資源価格上昇で改善著しい豪州の国際収支

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。